

農業ベンチャー

カゴメが出資

ベビリーフ販売へ

カゴメは16日、ベビリーフの生産を手がける農業ベンチャー、果実堂（熊本県益城町）に2億円出資したと発表した。創業者から株式を購入したほか、第三者割当増資を引き受けた。出資比率は10・63%で第3位株主となる。来春をめどにカゴメブランドのベビリーフの販売を始める。カゴメがトマト以外の

生鮮野菜を販売するのは初めて。カゴメが生鮮トマト事業で培った栽培技術を果実堂に提供し、生産効率を上げる。

ベビリーフはルッコラやミズナなどの薬物野菜の若葉で、サラダなどに使う。

25.12.17

日 経

熊本の果実堂

カゴメと提携

共同で商品開発

ベビリーフ（野菜の若葉）の生産・販売を手がける農業ベンチャーの果実堂（熊本県益城町）は16日、大手食品メーカーのカゴメ（名古屋市中）と資本業務提携したと発表した。カゴメが果実堂に2億円を出資し、発行済み株式の10・63%を取得。カゴメの技術提供や互いの商品力を生かした商品開発で、両社の収益

力を高める。

果実堂は2005年設立。熊本県内の直営農場のほか、北海道や東北の委託農場でベビリーフをハウス栽培し、年間約440トンを出荷している。

提携によって、カゴメが来年3月から販売する予定の袋入りサラダ「サラダバシク（仮）」の商品として、果実堂のベビリーフや芽大豆などを使用する。ドレッシングなどの関連商品も順次発売する計画という。

25.12.17

西日本